

「唐丹町 116 人の子ども支援ツアー」報告 3

—私が見た唐丹町—

山本 和子 群馬県渋川市



訪訪問中は、（信じられない！こんな素敵な人ばかりいるなんて！）の連続でした。すべてが、シナリオ通りと思うほどの見事なハーモニーでした。学校の諸先生、盛岩時のご住職さん、コンブの組合の方々、仮設住宅の方・・・一般常識で言えば、どちらかと言えば迷惑な独りよがりな訪問を、こんなにも快く迎えて下さって・・・と、私ごときボランティア精神の薄い人間には驚異でした。

東北の方があたたかい辛抱強い方々とはいろいろな機会に見聞きしておりましたが、町中で会った方、旅館の女将すべて、素直な素敵な方々でした。それが一番私の心を元気にしてくれたように思います。

昨夜、群馬テレビで、「耕作放棄地の活用」についての嬉しいニュースをみました。群馬県の「耕作放棄地」が耕作農地に占める割合は全国4位なのだそうです。そうした中でいろいろの対策が取られた、その中、甘楽郡の役場でその仕事の一人しかいない責任者が考えたこと、それは放棄地にプラカードを立てることだったそうです。そこには「地主の住所氏名・広さ・今まで作っていた作物・・・」の条件を記入し、借り手を募るという方法です。それを見た人で借りたいと思う人が申し込むシステムで、すでに四割の申し込みが、あっという間に決まり担当者自身がおどろいていました。アイデア次第だ！と本当に強く思いました。

そのアイデアに匹敵するのが高館さんの立ち上げたプロジェクトなんですな。

それにしても”唐丹”という稀れにみるとしかいいようのないコミュニケーションのしっかりした町で行われたことですばらしい力が、より発揮できたのだなあと、唐丹の町にも驚嘆しました。日本に一番必要なのはこのような方達なのだとは強くおもいました。



気仙沼 釜石訪問記

太田 茂子 福島県福島市

6月25～27日にJR東日本、大人の休日割引チケットを使って唐丹へ行く企画に堀さんより誘われ参加しました。気仙沼方面は今回初めて惨状を見ました。今までテレビ、新聞、雑誌等で見ていたのに、これほど広範囲に津波が押し寄せ、全てを奪い去った残骸を見て言葉がありませんでした。

今回の被害は各県共に本当に甚大な被害で本当に心が痛みます。

岩手県釜石駅に迎えに来てくれた下村さんの車に乗せてもらい唐丹小、中学校へ向かいました。昨年12月、今年3月に来ているので3回目の訪問です。

私の印象では来るたびに子供達の顔つきが良くなっているように感じました。

日々の生活が少し落ち着いてきたのか、笑みがみられるようになった感じです。

子供達の笑顔は人々を幸せにしますね。廊下に貼ってある沢山の写真、作品、メッセージを見て、皆未来に向け歩んでいると感心しながら見て回りました。頭の片隅に福島の子供達はどうだろうと考えながら。

地震、津波の被害が無くとも原発事故による放射能汚染からの避難で故郷を追われた人々、子供達の苦悩、故郷への思い等を考えるとつらいです。

福島市にも沢山の被災者のための仮設住宅、借り上げ住宅、アパートがあります。おもに原発による放射能汚染から避難してきた人達です。

福島市は地震後数日間電気、水道が来ませんでした。原発事故が起きたこともしらずに多くの人達は水の給付、食料品購入、そしてガソリン入れ等外に子供達まで動員して並んでいたのです。その時期東風に乗って放射能が福島方面に飛んでいたことを後で知り、私の同年代の多くの人達が嘆いていました。わかっていたら、孫たちまで並ばせなかったと。本当に悲しい事です。

昨年は多くの子供達は外になるべく出ないように、外の空気に触れないような生活していました。学校の校庭等は除染しましたが、地域、場所により線量にばらつきがあり、東風の通る道、吹き溜まりは高いので、人達は出来る限りの除染を試み、行動していました。時の経過と共に放射能の線量も大分低くなりました。全食品は安全と言われていますが子供を持つ親達、家庭によって異なりますが米、野菜は他県産を食べているようです。

大多数の人は何時も放射能の線量を気にしながら生活しているのが現状です。

堀さんが昨年震災後毎日ネットで世界中のエスペランチストに発信した報告が本「2011日本の地震、震災日記」(171p)になりました。

今年は「日本からの報告15」(427p)が発行されました。全部エスペラントで書いてあります。私は毎日これらの本を読んで、当時の様々な観点からの報告、堀さんの思い等、震災後の思いを新たにしている所です。



過酷な経験をした子供達が健やかに育ち、夢が実現できる“東北”にしたいです。

「EEC はねばり強く…」

伊藤 富美子 群馬県高崎市



【^{はるべ}花露辺の堤防に立つ伊藤富美子さん（左）】

感想文を書こうと四苦八苦しましたが、EEC 通信 26 号（6 月）の写真集を拝見し、何も余計な感想は必要ないと思いました。

ただ、進水式に臨んだ漁民の皆さまの意気込みを思うと、ここで採れる海産物、そして物みなが原発の被害をこれ以上受けないように、東北地方のみでなく、日本、いや世界中の人々が、人災としか言えない原発を廃止する方向を目指さなければならないと強く思いました。

簡単にはゆきまずまい。利害がからみ、政治の介入があつて、科学的真理はそのままでは通らない。

EEC の活動の根底にはねばり強く、将来を担う子ども達にも、この基本をくみ

取ってもらえるよう努力する義務があるとさえ思わされた今回の旅行でした。

石狩国際交流協会から唐丹の子ども達へ

— 宇野 紗菜さん（漫画家）と 11 人の USA の若者達から —



このたび、7月8日～17日まで、アメリカのNPO法人ワールド・ラーニングが主催する地域交流プログラムで、アメリカから高校生10名とリーダーが石狩に滞在しました。

その際、傷ついた子どもたちを「何かの形で少しでも応援したい」という声があり、**石狩市在住の人気漫画家、宇野紗菜さんと11人のアメリカの若者たちが、皆で応援メッセージを書いた旗を作りました。**

- 応援旗に添えられたお手紙 -

なかなか暖かくならなかった北海道も、今は夏真っ盛りです。

もう1ヶ月もすれば秋の気配が濃厚だというのに、暑くても寒くてもグチを言うなんて、人間のワガママですね。

でも、被災地の多くの方々にとって、そんな季節のうつろいなどは2の次、3の次のことかもしれません。あるいは暑さ寒さも身や心を刺すのかも知れません。

被災された方々にお声をかけるのは、とても難しいことのように感じていました。この震災で家族を亡くしたり、船を失くして家業がだめになったりした方々にとって、被災していない私が軽々しく励ますことは、かえって傷つけてしまうような気がしてしまうからです。ですが、高館さんのメールで「見守ってもらえるだけでも元気が出る」という言葉に、こちらも励まされて、この手紙を書いています。

私自身がこれまで一番つらかったのは、やはり大事な家族を亡くしたときでした。その気持ちならば、きっとシェアできる、と思います。私はそのときの自分に、今ならこんなアドバイスをしたいと思います。

1. 朝、きちんと起きて、朝日を浴びよう
2. ごはんをしっかり食べよう
3. 好きなだけ泣いてよいが、泣くだけ泣いたら、顔をあげよう

それ以上のことは無理にしなくても良いのだと思います。できるならすれば良いし、無理しないで、自分を許しても良いのだと思います。生きている自分は、これからも生きていかねばならない。いつまでも失ったもののことばかりを考えていられない・・・そんなふうを感じる時がやがて訪れ、そうすると、少しずつ夜中に泣きながら目覚めることがなくなり、少しずつ笑うこともできるようになりました。ちゃんとお腹もすくようになりました。そういうものなのですね・・・亡くした家族のことを絶対に忘れてなどいない、けれど、気が付くと、大切な思い出は、毎日使う引き出しの中から、普段使わない、宝物だけをそっとしまっておくための、特別な引出しの中に場所が変わっていきました。1日に何度もものぞいたりはしないけれど、絶対に亡くすことのない引出しの中に。



【応援旗を手に。唐丹小学校校長 西村文利先生（右）と盛岩寺住職 三宅 俊禅さん（左） 2012・8・4】

と、こんな思いをめぐらす私をよそに、このたび、石狩市在住で、月刊少女プリンセスで活躍中の漫画家、宇野紗菜先生と、11人のアメリカからの若者たちが、さらりと短いフレーズに、万感の思いをこめて書いてくれました。

彼らの思いが、どうかどうか伝わりますように。

少しでも、誰かの心に小さな灯りがともせますように。遠い空の下から、多くの方々が皆さんを気遣い、見守っていることを、どうぞ、覚えていてください。

10月には石狩市内で大きな国際フェスティバルを開催します。その会場で、また市民からのメッセージを集めたいと思っています。

来年の支援ツアーにも、可能な限り個人的に参加したいと考えていますので、ウェブサイトなどで情報をお知らせいただきたく思います。

NPO 法人 石狩国際交流協会
事務局 伊藤 朱美

【8月1日から8月31日までの支援者 19名 通帳記帳通りの表記で記載】

齋 巖、池田りょう子、松岡喜美子、村山代利子、松沢夕奈、匿名、右原君江、谷田裕子、高木健一、内山武、高木道子、掘泰雄、掘玉江、齋藤ツメ、高舘千枝子、井上和江、橋口成幸、赤沢典子、山本和子

【支援金振込み先】 郵便口座 記号：18390 番号：13087781 高舘千枝子宛

【お知らせ】 ①支援物資を受け取り、必要な方に配ってくださるボランティアの住所。

★〒026-0041 岩手県釜石市上中島町 3-4 上中島仮設住宅 27-4 柏山セツ (TEL:0193-25-3378)

★〒026-0041 岩手県釜石市上中島町 3-4 上中島仮設住宅 28-5 佐々木政代 (TEL : 090-3369-2093)

★〒026-0121 岩手県釜石市唐丹町花露辺 127-2 下村^{しげとし}恵寿 (TEL : 0193-55-3031)

★〒026-0121 岩手県釜石市唐丹町大石字向 54 大石仮設住宅 1-1 大向惣三 (TEL : 090 2367 6084)

- ・ 食料品が一番嬉しいです。(日持ちする食料品、各地のスイーツ、コーヒーやお茶などの嗜好品等)、生ものはチルド便であれば大歓迎！特に肉類、加工品等は大歓迎。
- ・ 衣類であれば半袖より七部袖のTシャツ、サマーセーター類(女性)、長袖Tシャツ(男性)。
- ・ 洗剤、石鹸、ティッシュ、シャンプー、リンス、タオル(大・小) シーツなどの日用品。

★物資支援者…宇野 致

② 著 書 『3・11 東日本大震災の記録 第1集 明日を見て前を向いて』

(岩手県中学校長会 2012・3 発行)

8月11日、震災から1年5ヶ月の日に唐丹中学校より寄贈されました。

岩手県内の中学校の被災地支援の取り組みが237ページにわたり記録されております。



- ・ 唐丹中学校は校舎が使えず体育館での授業が12月まで続きました。記録集に体育館での授業風景が掲載されました。
- ・ 体育館をボードで仕切った授業。不満一つ漏らすことなく、皆で我慢しながら仮設校舎が出来るまで頑張った事が思い出されます。



EEC 東日本大震災教育支援

EEC 通信 28号

2012年8月31日発行